

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2071300111		
法人名	特定非営利活動法人 赤いにんじん		
事業所名	グループホーム赤いにんじん		
所在地	長野県飯山市大字下木島258 (電話) 0269-81-3037		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】 (平成20年 2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年12月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	7人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	一部	2階建て	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有 (円) <input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="radio"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(平成20年 2月18日現在)

利用者人数	6名	男性 0名	女性 6名
要介護1	1	要介護2	0
要介護3	1	要介護4	2
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 86歳	最低 76歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・飯山赤十字病院 ・木島平クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や川に囲まれ、春夏秋冬、自然豊かな環境の中にホームがある。二つの川に挟まれた地域の特性で、建物の1階は水害対策や冬の雪対策として倉庫や車庫として使い、中2階にキッチン・共有空間・事務室があり、2階には居室・風呂・トイレがある。階段も広く手すりがあり、リハビリに適している。職員は入居者をよく理解しており、ゆっくりと流れる時間の中で個々のペースに合わせた支援を行っている。家族会が月1回開かれ、会食をしながら相談や意見交換をしている。入居者・家族・職員からの協力医への信頼は厚く、相互の理解の基にターミナルケアを実践できている。人の繋がりを大切にしようという「ホームの家風」は、地域の人達が気楽に入れるように常に玄関ドアを開放していることにも表れており、周囲からも理解されている。地区の行事には積極的に参加し、1人暮らしの高齢者料理教室や在宅介護者の介護教室を開催するなど、地域の有力な社会資源となっている。来訪者には手料理が振る舞われ、北信濃の細やかであたたかな人情を肌で感じることができる、再び訪れたいホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	特に改善点はなく、風土・文化を大切に、地域に根づいた取り組みをしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義や目的は職員に伝えられており全員で評価を行っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は定期的開催されている。月1回開かれる食事を兼ねた家族会や地域行事等に話題を投げかけ、相談や意見を求めたりしている。その場が推進会議のような役割を満たしているのか、実際の運営推進会議では意見が少ない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族会は毎月1回開かれている。管理者はその場で家族の意見や相談に耳を傾け事業に反映させている。管理者は毎月家族に手紙を出している。手書きで入居者の健康状態や日々の様子を知らせたり、レシートなどのコピーを送り金銭の報告をしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域の一員として暮らしていくことをめざす」とあり、地域密着型サービスとしての理念が盛り込まれている。ホームは地区の社会資源にもなっており、周りの住民との絆も強い。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は理念を理解し、共有しつつ具体的に行動し、実践につなげている。管理者自ら実践する姿がお手本になっており、職員のケアの質の高さが窺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の挨拶や会話は自然にできている。近所の人々が季節の野菜等を持ってきた時にはお茶のみ交流をし、隣近所のつながりを大切にしている。地区のお祭りや地元公民館主催の「つどいの日」等の行事には積極的に参加し交流している。ホーム主催の毎月1日の「おはぎの日」や盆踊り大会にも地区住民が大勢参加し、ごく自然に、普通におつきあいをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解している。ミーティング等で管理者から意見を求められたり、検討し合ったりし、具体的に取り組んでいる。		

グループホーム赤いにんじん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では実情報告等を行っている。家族会や行事の際に意見等を聞いたり相談をしているので意見は少ないが、意見・要望等は出来るところから改善している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームには市職員等の来訪が頻繁にあり、その際に話したり、困った時や分からない時は市相談窓口に出かけ、協力を得ている。市等から受託の介護教室は市内6ヶ所で開催されており、管理者が市担当部署等と協働し、介護者へ情報・技術等を伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族会があり、その都度日々の様子を話している。手紙でも生活状況や健康面を毎月知らせている。支払い明細書とともにレシートの写しを送付し、毎月の収支報告と残高を知らせている。年2回、金銭出納帳の確認印を家族からいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族会開催など、家族の意見が言いやすい雰囲気があり、家族からホームへの信頼度も高い。面会時にも不満や苦情が言えるようになっている。相談・苦情等の記録もされており、サービスの向上に反映させていく仕組みがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来の職員も多数おり、職員の異動は極めて少ない。職員の処遇についても法人の最大限の配慮がされている。異動の際は家族への説明をしており、職員の引継ぎも確実に行われ、入居者と馴染む時間は早い。		

グループホーム赤いにんじん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てるため、管理者は計画的に研修会や学習会に職員を参加させている。職員も自分が休みの日でも積極的に参加し、自らケアの質の向上に努め、管理者の後姿を見ての実践的な知識や技術、アドバイスからも学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域のグループホームと学習会や交流会を行っている。近隣のホームの入居者やデイサービスの利用者の来訪もあり、一緒に食事をしている。職員がチームを組んで、他のホームへの踊りの慰問等を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が申し込みの本人・家族を訪問し、生活環境の把握や観察に努め、要望に沿うように配慮している。入居前の見学や本人の希望があれば体験入居を受け入れ、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は培った得意分野で個々それぞれ役割を持っている。職員は入居者を尊重しその姿から学んでおり、ホーム全体に暖かい家庭の雰囲気がある。入居者と職員は家族の一員として支えあっており、ターミナルケアも受け入れている状況から「哀しみ」の場面にも他入居者とともに自然体で臨んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の個性を十分理解し、良い所を見るようにしている。入居者個々の希望や意向を汲み、出来ることは本人本位に対応している。介護度の高い入居者には日々の行動や表情から推し測り、好きな童謡を歌ったり声がけし、個別対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の生活状況が管理者から送られている。課題に対しては本人や家族の希望を聞き、医師や必要な関係者と相談しながら本人主体のサービス計画書を作成している。家族向けにより具体的な計画書が作成されており、家族のもとへ送付され、要望等も伺っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態が変わった時には、関係者（家族・協力医等）に相談をかけながら見直しをしている。変化を見逃さないように職員は注意して観察している。現状に即した計画見直しがされている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者6人のホームは小回りが利くので出来るだけ地域の行事に職員とともに参加している。やや遠方のかかりつけ医の受診に職員が同行したり、住み慣れた家の近くにドライブしたりもしている。日中の職員が3人体制であるので、臨機応変、柔軟な支援が出来ている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に地域の協力医療機関に変更し、緊急時に対応が出来るよう家族の同意を得ている。協力医療機関の医師はホームからの依頼により家族と連絡を取ったり、入院の際は自ら病院等に連絡をしてくれ、親身に相談にのってくれたり助言も得ることができ、本人・家族・職員の人望が厚い。月2回の定期的な往診の他、緊急時にも時間を割いてくれるので、家族の安心につながる適切な受診体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と話し合い、ターミナルケアについて説明を十分行い、家族の意見も聞き、意思統一が図られている。急激に重度化した場合は状況に応じて、家族、主治医、職員が随時話し合いを重ね、支援計画を立案している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝・夕のミーティング、第3週の全体会議等の際に議題として取り上げ、職員の意識の向上を図り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの週間予定はあるが、理容・美容院への外出、買物、散歩等、一人ひとりの状態や思いに合わせ、その日の希望に沿えることは臨機応変に対応している。特に、介護度の高い方には個別のペースを大切に、見守りながら支援している。		

グループホーム赤いにんじん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や食事の準備、片付け等、入居者の能力や体力に応じたことを職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めているが、その日によって入る順番に配慮している。入浴時間帯にはパート職員を補充し、介護度の高い入居者への配慮もされている。どうしても入れない方には清拭をしているが、入浴を拒む方への言葉かけ等は工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯もの畳み、ゴミの片付け等、一人ひとりの役割を決め、張り合いを持って生活できるように配慮している。一緒に歌ったり、買物に出たり、本の読み聞かせ等、入居者の好きなことを把握し、個別に支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見を兼ねたドライブ、近隣のホームでの食事会、家族との外出、日常的な散歩や日向ぼっこなど、一人ひとりの状態・体力に合わせた外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけていない。夜間のみ施錠しているが、日中、玄関のドアは冬場も含め開放されている。ホーム近隣の人々とも顔なじみの間柄になっており、万が一の場合にも連絡をいただける関係づくりができています。		

グループホーム赤いにんじん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、近隣住民の参加・協力も得て、消防署の指導の下に避難訓練を行っている。入居者によっては避難方法、避難経路を別に設定する必要があり、職員会議で個別に検討されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地産地消、手作りを基本としている。訪問調査当日のおやつ・食事メニューも創意工夫に満ちた美味しいものであった。職員は記録をつけながら栄養摂取や水分量の確認を行っている。お粥、ミキサー食、嫌いな食材の代替食等、状態に応じた支援をしている。近隣の施設の管理栄養士の協力を得て、栄養バランスにも留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの装飾品や行事の写真が居間を飾り、家庭的な雰囲気を感じている。居室への階段の入居者手製の暖簾は縄のれん風で、ボタンと新聞紙を小さく丸めつなげた、落ち着いた色づかいの作品であった。居間の前のテラスにはベンチがあり日向ぼっこを楽しめる。窓外には山や田畑の四季折々の雄大な自然が広がっており、眺める風景が心を豊かにさせられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	6室それぞれ畳部屋であり、障子越しにやわらかな光が感じられた。各居室とも簡素ではあるがベッドが持ち込まれたり、若い頃や家族の写真、絵が飾られ、個性が感じられる居室づくりがされている。		

※  は、重点項目。